

令和3年2月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和3年2月分について、輸出額は「自動車」などが減少したことから、対前年同月比8.7%の減少となった。また、輸入額は「原油」などが減少したものの、「衣類及び同附属品」、「液化天然ガス」などが増加したことから、同32.1%の増加となった。
その結果、差引額は5,289億円（同25.6%の減少）となった。

注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による
また、★印は全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

○総額

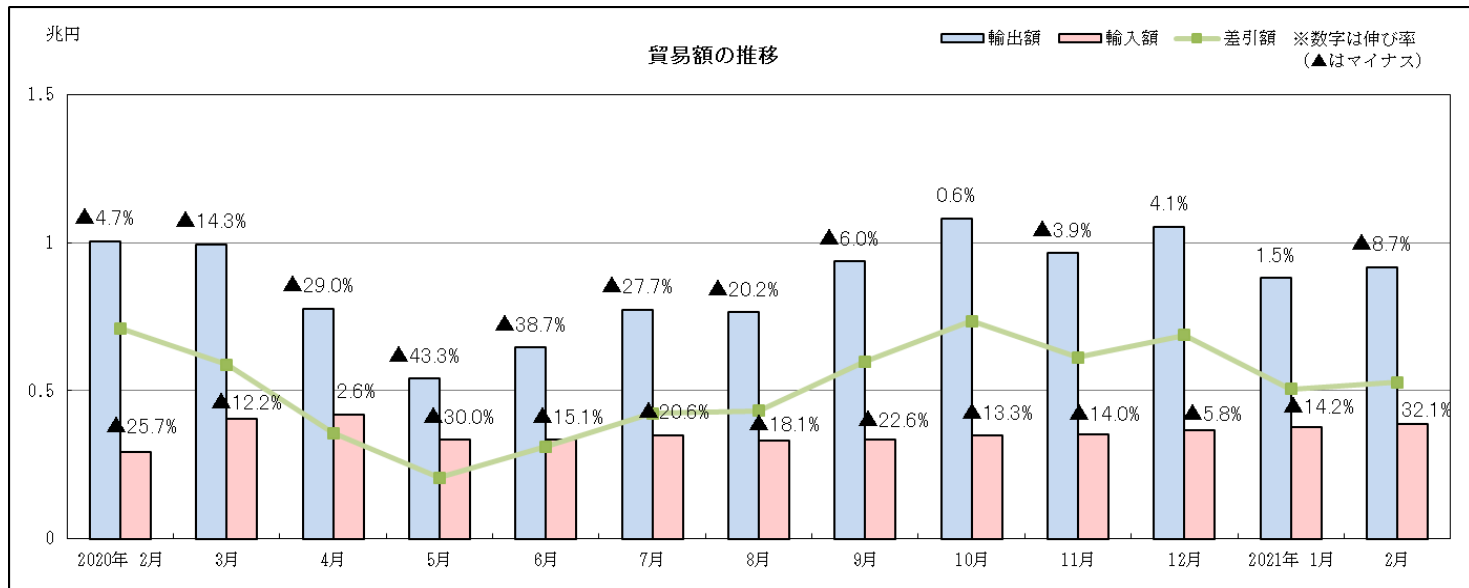
区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	9,177億円	▲8.7%	3,889億円	+32.1%	5,289億円	▲25.6%
	3ヵ月ぶりの減少		10ヵ月ぶりの増加		6ヵ月ぶりの減少	
管内（名港シェア）	1兆4,370億円（63.9%）		7,106億円（54.7%）		7,264億円（—）	
全国（名港シェア）	6兆0,380億円（15.2%）		5兆8,206億円（6.7%）		2,174億円（—）	

注) 名古屋港における輸出額は、令和2年9月以降6ヵ月連続 全国港別（空港を含む）第1位

注) 名古屋港における差引額は、平成23年6月以降117ヵ月（9年9ヵ月）連続 全国港別（空港を含む）第1位

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出 減少	(1) 自動車	2,286億円	▲15.9%	▲4.3	13ヵ月連続の減少
	(1) 衣類及び同附属品	263億円	+82.5%	+4.0	19ヵ月ぶりの増加
輸入 増加	(2) 液化天然ガス	372億円	+34.9%	+3.3	8ヵ月ぶりの増加
	(1) 原油	188億円	▲16.6%	▲1.3	4ヵ月連続の減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。